

新しい風、
始まる未来

- 1 特集/TOP INTERVIEW
株式会社 CFC
後藤会計事務所
有限会社 中津自動車学校
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS

障がい者も猫も、
誰もが幸せになる場をつくりたい



上／譲渡会は毎月実施。開設以来、約45匹のネコが新たな飼い主のもとへの譲渡が成立している
下／健常者、障がい者の垣根なく、みんなが笑顔で集うカフェ。2階に就労継続支援施設がある



上／店内はテーブル席のほか、保護ネコを観ながらゆっくり過ごせる空間
下／店内の一角で販売されている雑貨は全て同施設で働く障がい者が手作りしたもの

大分市郊外の閑静な住宅街の一角に、障がい者を雇用し、さらに保護猫を鑑賞しながら食事やスイーツを楽しめる珍しいスタイルの店「かぎのしっぽSAKURAZAKA Cafe」はある。カフェでは、障がい者と健常

者のスタッフが協力しながらイキイキと働く姿や、ガラス越しにお客さんが保護猫を観ながらのんびりと過ごす光景が印象的だ。2階には、就労継続支援B型「ワークプレイスbホープ」があり、ここで作業をする障がい者も、保護猫のお世話や、譲渡会の運営などをスタッフとともにやる。

運営するのは、障がい者のグループホームや就労継続支援B型施設などを展開し、精神障がい者・知的障がい者の支援事業を行う(株)CFC・代表取締役・首藤和彦氏。

首藤社長は大学を卒業後、全くの異業種でサラリーマンとして勤めていたが、身内の入院を機に、人を支援する仕事に感銘を受け、この道へ進むことを決意。36歳で会社を退職し、福祉の専門学校へ1年間進学。精神保健福祉士、社会福祉士の資格を取得、さらに大分大学大学院でも専門知識を学ぶ。

その後、医療機関での勤務を経て2012年に障がい者支援の事業所「一般社団法人

SW(ソウ)ライフ」を、2019年には障がい者支援に加え、保護猫活動を手掛ける同社を設立した。

障がい者が働く環境や選択肢を増やし、社会の一員として自立した生活を送るための支援を行うなかで、「保護猫活動」の事業にも取り組むことになったのは、グループホームに入所していた障がい者が、衰弱した猫を保護したことがきっかけだった。「捨て猫や、猫の殺処分は社会的な課題。最初は私が個人で保護猫活動をしていたが、限界を感じた。そこで不幸な猫を一匹でも減らすことを事業化し、さらに障がい者の雇用にも結びつけ、新しい仕組みを作ろうと思った」。

「障がい者福祉」と「動物福祉」が融合した事業を行うことで障がい者が、働きがいや人と出会うことの喜びを知り、最終的に社会で自立できるようにしたい。と同時に、少しでも事故や殺処分で犠牲になる猫が減り、新たな家族と出会うきっかけをつくりたい」と熱い思いを語ってくれた。

首藤氏は高校、大学、社会人と続けているラグビーで培った、持ち前の強いメンタルとバイタリティーで、2024年の春には高齢の猫の介護を行う老猫の老人ホーム「キャットケアセンター おおす」を新設する予定。また今後、障がい者の働く場を増やすべく就労継続支援A型施設の拡充や、自身の経験や知識を生かし若い人材育成も努めるなど、障がい者とネコ、一般の方と、誰もが幸せになれる場づくりを使命に、活躍し続ける。

「自分の活動と経験を未来の人材育成にも生かしたい」と福祉系専門学校の講師も意欲的に務める



大分東部ブロック同友会

[その他の障がい者福祉事業/飲食店]

株式会社 CFC

代表取締役 首藤 和彦氏

DATA

所 大分市希望が丘1045-21 ☎097-574-4712

営 8:30~17:00 ※カフェは10:30~17:00

休 日曜・祝日 ※カフェは火・水曜 あり

https://www.cfc-hope.co.jp/

企業経営の「かかりつけ医」として地域に貢献

豊後大野市をはじめ竹田市や大分市の中小企業をメインに、税の申告や書類作成などの税務業務や金融機関への融資のサポート、新規事業立ち上げ、事業承継に関する相談などを行う「後藤会計事務所」。

代表を務める後藤素宣氏は学生運動が盛んであった激動の時代に、明治大学へ進学。大学時代は経理研究所に在籍し、公認会計士の道を志す。

その後、東京で会計事務所勤めながら、事務経験を積みつつ猛勉強を重ね、念願の公認会計士の資格を取得。公認会計士、税理士として活躍し経験を積む。「当時は東京に残って仕事を続けたいという想いもあったが、長男ということもあり、いつかは地元へ帰ろうと決めていた」と、30代で大分へ帰郷。しかし「天職である税と会計の仕事がしたい」と小売業を営んでいた父の事業は継がず、会計事務所を設立する。開業当初は、地元での仕事だけでは事務所の経営が成り立たないと、監査法人の事業を手伝い、東京や大阪の事業者の監査を行うなど県内外を飛びまわることも多かった。

後藤氏は現在78歳。独立開業し40年以上たった今も、豊後大野市で唯一の公認会計士として活躍。多くの中小企業の経営者が抱える税やお金、さらに経営についての悩みや困り事に真摯に応え続ける。

「最近では2代目、3代目といわれる若き経営者からの事業承継や資金面、新規事業など

大野同友会

[公認会計士]

後藤会計事務所

所長 後藤 素宣氏

DATA

所 豊後大野市三重町市場559番地

☎ 0974-22-3880

☎ 8:30~18:20 ※土曜は~12:00

☎ 日曜・祝日、土曜(隔週) Pあり

https://m-goto-kaikei.tcnf.com/

の相談が増えている。またコロナ禍で売り上げが激減して以降、思うように業績が上がらないなど、地元の中小企業の抱える悩みは多岐に渡る。様々な悩みや課題に対して、解決にむけ一緒に考えながら、「企業のかかりつけ医」としての役割を果たしたいと、今も職務に対する熱い思いは変わらない。

また同事務所では税務業務や企業の経営支援だけでなく、相続に関する相談や申告も得意とする。「所有している土地を地元の公共施設の設立のために譲りたいが、税のことがよくわからない」「家の財産の相続をするときどんな税金をどのくらい払えばいい？」など、高齢化がすすむ地域ならではの相談にも、行政書士や司法書士とも連携し、柔軟に対応。大手会計事務所では手が行き届きづらい「地元目線」の業務も手がけ、信頼は厚い。

さらに地域に根ざした取り組みのひとつとして、大分県信用組合三重支店とともに法人・個人の事業者を対象とした「経営セミナー」を開催。「会計について詳しく知りたい」「電子帳簿保存法とは？」など、様々な悩みに応える活動も行う。昨年5月には「インボイス制度」「自社の販路拡大」をテーマにしたセミナーを実施し、好評だった。

三重町で開業し40年以上たった今も、豊後大野市唯一の公認会計士として活躍を続けている



「少しでも豊後大野市やその周辺で事業を行う方々の役に立ちたい。自分が培ってきた経験をもとに、時代のニーズに合わせたセミナーを定期的に開催したい」と意欲を語る。



スタッフは全部で7名。後藤所長と職員全員で、丁寧に確実な仕事を行う



上／新人スタッフも入社。若い人材育成にも力を入れている。中／中小企業のほか、学校法人の監査など幅広い業種・業態の顧客から支持される。下／大分県信用組合三重支店で行った経営セミナーの様子



広々としたコースで確かな運転技術をマスターできる



安全な車社会の実現を目指し、信頼の教習サービスを提供する

今年で開校63年目を迎えた「中津自動車学校」。日本国内の自動車保有台数が飛躍的に増加し、本格的に到来した車社会を初期の時代から支え、今日まで地域の交通安全に貢献してきた。しかし1990年代初頭まで拡大し続けた自動車教習所市場も人口減少に伴い、教習生の集客が徐々に苦境に。創業者である父親の急逝を受け、代表取締役にも急遽就任した相良直子氏の新たな歩みは、まさにそのタイミングからスタートした。

それまで主婦として家庭を守ってきた相良氏が改革箇所としてまず着目したのは、免許取得に要する日数の改善。当時は普通免許取得に平均3カ月を要していたが、入校から20日程度での卒業を実現する「短期集中コース」や、毎日の教習スケジュールがしっかりと効率的に組み立てられ、卒業までの日程が明確な「合宿免許」などのプランを導入することで生徒の新規開拓を試みた。さらに自動車学校の“顔”とも言える教習車のボディカラーを、白主体のデザインから鮮やかなメタリックレッドにリニューアル。人々の注意を引く色として知られる赤色による周囲への注意喚起はもちろん、地域への宣伝効果を考えた。現在も

折り込みの広告など、同校の認知拡大に力を入れている。

このような経営努力により、現在は市外・県外から訪れる教習生も多数。受入生徒数は年間1400人を維持し続けている。普通自動車をはじめ、普通二種や大型車、中型車、けん引車、大型二輪、普通二輪など、多彩な免許の取得支援も好評。西日本最大級の規模を誇る広々とした教習コースや託児室、休憩所の完備、施設内のバリアフリー設計など、充実した環境設備も人気の理由に挙げられるだろう。

そして今後取り組むべき優先課題については、「指導員の労働環境を整備していくこと」と相良氏。お客様のために進化し、選ばれる自動車学校であるためには、ともに働く社員の幸福追求は不可欠だと語る。また、相良氏の故郷である耶馬溪への思いも大きく、耶馬溪の発展に貢献していきたいと力強く話す。「生前に父は“県北に光を”という言葉をよく唱えていました。ですから私も、いつの日か幼い頃の思い出が詰

まった耶馬溪の発展に寄与出来たら良いなと考えています。素敵な耶馬溪が、いつまでも輝き続けますように、この夢は私だけでなく、息子達・孫達の世代にも持ち続けてほしいと願っています」。1998年の事業継承から時代のニーズをしなやかに受け止め、自らの導き出した答えを信じ、家族と手を取り合いながら真っ直ぐに走り続けて26年。より良い自動車学校の運営はもちろん、変革を恐れず挑戦するマインドを胸にこれからも事業の幅を広げていく。

思い立ったら即行動。自分の直感の下、その時代に最適な事業の在り方を模索してきた相良氏



中津下毛同友会

[自動車学校]

有限会社 中津自動車学校

代表取締役 相良 直子氏

DATA

所 中津市新田368-2

☎ 0979-22-3531

営 9:00~20:20 ※土~17:00

☎ 火曜 Pあり

https://nakatsu-ds.com



育児中の免許取得も託児室があるから安心。専任の保育士がサポートしてくれる



合同会社サーバー

代表社員 河野 俊一郎さん



保護者目線の仕組みや家庭的な雰囲気、ゆとりある保育体制で保護者の信頼も厚い「めいじここのは保育園」

DATA

[保育園経営]

合同会社 サーバー (めいじここのは保育園)

所 大分市猪野278-3 (保育園)

☎ 097-547-9346 (保育園)

🕒 8:30~17:30

🗓 休土・日曜、祝日 📍あり

<https://mejikotonoha.jp/>

保育園園長が挑む 顔認証使用の新システム

「合同会社サーバー」は「顔認証」を用いたシステム開発を手がける、令和2年創業の若き会社。会社員時代を含めるとIT業界20年以上の河野俊一郎氏が、48歳で独立を決めたのには、IT業とは別の夢である「保育園をつくりたい」という思いがあったからだ。きっかけは長年取り組んでいる小・中学校のPTA活動。「PTA活動でいろいろな方と出会う場面では仕事や子育てに追われ、疲弊している保護者を多くみてきました。子育ては本当に大変なこと。保護者に心の余裕があれば、子どもの笑顔につながるのでは。何か自分にできることはないかと思っていました」と、保育園設立の背景を語る。

そして令和5年の3月、大分市猪野に念願の「めいじここのは保育園」を開園。0歳児から3歳未満の園児が、毎日のびのびと過ごす。園のテーマは「保護者支援」。例えば紙オムツは使い放題であったり、お昼寝布団も在園児専用のものを用意し、洗濯も園

が行うなど、忙しい保護者の負担を、少しでも軽減できる仕組みを取り入れている。

また、会社創業時から挑戦しているのが、乳幼児のお昼寝時に使用する「うつ伏せ寝防止システム」の開発だ。保育の現場では園児のうつ伏せ寝を防ぐため、保育者が数分おきにチェックをするなど、業務の大変さと言うまでもない。「システム開発で培った技術や知見を生かし、顔認証型のうつ伏せ寝防止のシステムを作ることで、園児の安全はもちろん、保育者の業務への負担軽減にもつながれば」。

画期的な新システム「てんとうけんちくん」は、今年の6月頃には試作が完成予定。まずは自社の園で実証実験を行い、将来的には他の園での運用を目指す。「保育園が開発する、子どもの安全を守る独自システム」の完成を目指し、開発者、そして保育園園長と、二足のわらじを履く河野氏の奮闘は続く。

キラリ 新風力 New Wind & Fresh Power ふわり 爽風力

想いを守り、技術で応える 船づくりのエキスパート

一隻の船はその巨大さゆえにいくつかの鉄の構造物“ブロック”に分けて製造され、最終的にそれらを繋ぎ合わせて完成する。いわば船の骨格とも言える船体ブロックの製造と組み立てを通じ、海洋インフラを支えて続けて54年。佐伯市に本社を構える「壽工業株式会社」は、半世紀を超えて人々の日常や経済活動の発展を担ってきた。造船業は景気変動の影響を受けやすいため、時勢の変容によって迫られる立地調整や人材の流出など、これまでの歩みの中で乗り越えてきた困難は数え切れない。しかし県内外の取引先から長きに渡って高い信頼を得る同社の行動指針は、どんなときでも「安全第一、品質向上、納期厳守」。諦めずに努力を続けていけば、やがては一つの大きな事業ができるとの考えから、社訓には「継続は力なり」という言葉

を掲げている。また、製品はほんの微細なズレであっても最終的な船体のクオリティに大きく影響するため、機械化や自動化の進んだ現代でも高い技術力を持った職人が同社では多く活躍。鉄鋼と長く向き合うこの道のプロ達の手を取り合い、技術を集約してようやく完成するのが船体ブロックなのだ。この熟練技術を次世代に継承していくためにも、目下の課題に人員確保をあげた高島代表。「大海原を舞台とするものづくりの醍醐味を多くの若者に知ってもらいたい」と語った。四方を海に囲まれた日本にとって、船は物流や人流を支える根幹となるもの。よって毎日の生活の中で、実は誰もが無意識にその恩恵を受けているのだ。

創業時から変わらず、実直にものづくりへの情熱を保ち続けてきた同社は全ての仕事においてやるべきことを考え、手を抜かず決して見て見ぬふりをせず。これからも確かな製品を佐伯市から届けていく。



壽工業株式会社

代表取締役社長 高島 裕一さん



関連会社の社員や協力工を含めると総勢500名が在籍。佐伯市狩生にも工場を構える

DATA

[鉄鋼業]

壽工業株式会社

所 佐伯市木立6265-1

☎ 0972-28-3316

🕒 8:00~17:00 🗓 変形労働時間制

📍あり

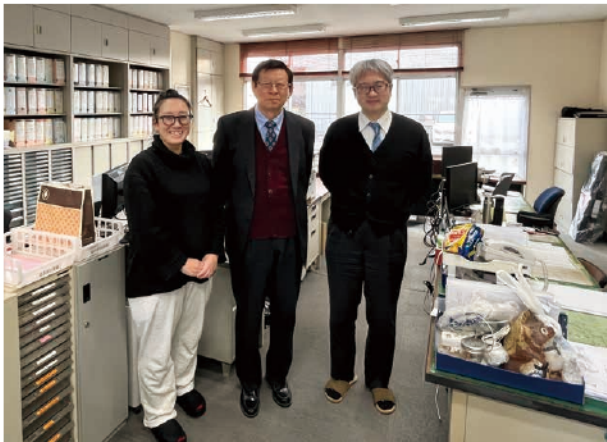
<https://kotobuki-grp.jp>



COMPANY GUIDE

経営
コンサルティング業

株式会社 アテイン



淵上氏とスタッフの皆さん。
中小企業の経営者の経営課題に、真摯に向き合う姿勢が支持されている

経営者が抱える悩みや描く未来に寄り添う

「経営コンサルティング」という業界自体が浸透していなかった30年以上前から、中小企業をメインに、事業支援を行う「アテイン」。事業計画の作成をはじめ、「MAS監査」システムを導入した経営サポート、M&A（マーケティングオートメーション）の仲介など、幅広い事業支援に取り組み、多くの経営者をサポートする。「どの会社にも資金や売上アップなど多くの悩みや課題があり、問題の解決策がわからないと嘆く経営者も多い。私どもが企業の企画室的な役割をもち、経営者が描く未来像を導き、並走していきたい」と淵上茂弘社長。現在72歳の淵上氏は昨年、引退も考えたが、まだ自らの学びを事業に生かしたいと現役続投を決める。今も多くの中小企業の経営支援を行うほか、今後は別会社で展開している相続や就活に関する支援事業にも取り組んでいきたいと語る。



〒大分市中津留2-1-14
☎097-558-0705
営業 8:30~17:30
休 土・日曜、祝日
Pあり

建設業

株式会社 石川建設工業



モダンな社屋外観。20代を中心としたスタッフがー丸となって、社会インフラを支える仕事を行う

若き人材の技術が光る足場、橋梁工事のプロ集団

建設や土木の現場で、安全に質の高い工事を行ううえで重要な役割を果たす「足場」。その足場工事や橋梁工事をメインに行う「石川建設工業」。モダンな社屋、明るくカジュアルな雰囲気や業務に携わるスタッフと、ひと昔前の「とび職」のイメージを覆す同社は、北陸新幹線や岐阜県のリニア中央新幹線の橋梁工事など、県内外を問わず数々の工事を、高い技術力と若きパワーを武器に手がける。「足場は建設や土木現場の作業に、なくてはならないもの。期限のある工事を滞りなく行うためにも、私たちが工期を確実に守り、安全な足場をつくることに妥協はしない。また積み重ねてきた実績と信頼を強みにし、今後は足場、橋梁の分野だけでなく土木工事にも力を注ぎたい」と意欲を語る石川裕也代表。まさに建設・土木業界の「縁の下の力持ち」的存在として今後が期待される。



〒大分市横塚2-1-37
☎097-547-7978
営業 9:00~17:00(受付)
休 土・日曜、祝日
Pあり
<http://www.ishiken1109.co.jp/>

建材販売業

有限会社 柳生商店



緒方町で唯一の建材店として、社員とともに、長年続く事業を地道に営む

昔も今も。地域に住む人の暮らしに寄り添う存在

緒方町で昭和44年に創業。合板や内装資材、サッシやガラスなど、建築に欠かせないあらゆる建材をはじめプロパン・金物などの販売を行う。「社会情勢の影響もあり、資材の価格高騰など大変な面もあるが、お客様が納得のいく商品を、納期厳守で届けることを最も大切にしている」と語るのは、祖父と父の代から50年以上続く事業を、堅実に受け継ぐ柳生芳宏現社長。工務店や大工からの受注のみならず、個人のお客様からの注文にも柔軟に対応。高齢者が多く住む地域だけに、お年寄りから「屋根の具合が悪くて」「窓ガラスが割れた」など、些細な修理の相談も少なくないが、繋がりのある工務店や大工とも連携し、住まいのあらゆるトラブルに駆けつけ対応する。「家のことで困っている人の頼れる存在でいたい」。町内で唯一の建材店として、地域に貢献するための歩みは続く。



〒豊後大野市緒方町馬場212-3
☎0974-42-2484
営業 8:00~17:00
休 日曜、祝日
Pあり

電気工事業

有限会社 伸栄電設



「地元好きだからこそ、これからも電気工事を起点に地域貢献できるよう努めたい」と吉田氏

地元愛を大切に、電気設備の困りごとを担う

吉田龍司現社長の父が創業。30年以上たった今も臼杵市を中心に、一般家庭や企業の電気配線工事から、プラントの高圧受電設備工事まで、幅広い電気設備事業を請け負う。高齢化や過疎化がすすむ地元では「テレビが映らなくなった」「空調の調子が悪くて」など、ちょっとした電気の不具合や困りごとの相談も多い。「生まれ育った地元の人に役立つ仕事がしたい」と、時には吉田社長自ら、昼夜を問わず修理や工事に出向き、人々の日常生活をサポートする。

30代で会社の経営を任されてからは、商工会や消防団への加入や、臼杵と野津の野球のスポーツ少年団の指導者も務めるなど、意欲的に地域のための活動も行う。今後、事業の課題として急務なのは若き担い手の確保。「自分が指導してきた野球の教え子が、野津で仕事をしてくれたら」。人材雇用・育成への想いも熱い。



〒臼杵市野津町
西寒田2043-1
☎0974-32-7746
営業8:00~17:00
休土・日曜、祝日
Pあり

電気工事業

有限会社 大下電気工事



大下代表が一代で築いた会社は平成15年創業。宇佐・中津・豊前を中心に幅広いエリアに対応する

電気を通じて社会を動かし、明日を輝かせる

人々の生活全般に広範囲かつ深い影響を与えている電気。常に需要があるからこそ、日常の中でその大切さを意識することは中々難しいが、地域で暮らす人々の心に安心の光を灯し続けているのが「大下電気工事」だ。企業やテナントなどの電気設備工事を軸に、家電量販店の配送設置工事も担い、約6年前からは長年培ってきたノウハウを活かして太陽光発電事業にも参入。電気のプロフェッショナルとしてあらゆる領域をカバーしている。そして創業21年目に突入した現在の夢は“地域No.1”になること。また業界全体の人手不足を心配する大下靖彦代表取締役は、「いつの日か職人を育成する訓練校も運営したい」と将来について語った。社会のインフラを支える同志として相互に補完、刺激し合う関係を築くことで新しい市場を開拓、地域貢献を目指していきたいという。



〒中津市小祝521-3
☎0979-24-8461
営業8:00~17:00
休水、日曜
Pあり

建築工事業

有限会社 松葉建設



創業は昭和52年。中には親子2代、3代に渡って付き合いが続くお客様もいるという

地域に寄り添い、住む人の暮らしを紡ぐ

新築住宅や施設、店舗などの設計から施工、リフォーム、寺社仏閣の改修工事まで、地場の工務店だからこそ叶えられる“一社完結型”の細やかなサービスが好評。3代目となる松葉潤代表取締役は「ご家族が思い描く理想を、できる限りしっかりとカタチにしていきたい」と語り、お客様一人ひとりの対話を何よりも大切にする。また、施工を担当しているのは、長年に渡り「松葉建設」を支える経験豊富な大工が中心。少数精鋭で互いを知り尽くした仲間ならではのチームワークと職人の高い技術力で、昔ながらの伝統構法を活かしつつ、近代的な住宅のアイデアも柔軟に取り入れていく。さらに建てたら終わりではなく、引き渡し後のトラブルもしっかりとサポート。住まいにまつわる様々な困りごとに迅速に対応できる体制を構築し、日々の暮らしを支えている。



〒中津市耶馬溪町
柿坂534-3
☎0979-54-2084
営業8:00~17:00
休土・日曜
Pあり
<https://www.matsuba-kensetsu.com>

久大友会 開催される

令和6年1月22日、日田市マリエールオークパイン日田にて「けんしん久大友会 大分県信用組合事業報告会・基調講演会」が開催された。久大地域の行政機関、経済界より多数のご来賓のご参加をいただき、九州旅客鉄道株式会社 執行役員大分支社長 吉野敏成様より「JR九州の取組みについて～久大本線のむかしといま、そしてこれから～」と題して講演をいただいた。会場には大分駅、由布院駅、日田駅の各駅長様にもご参加いただいた。

懇親会では吉田一生副知事、棕野美智子日田市長、相馬尊重由布市長、日野康志九重町長、宿利政和玖珠町長、佐竹享久大友会会長、JR吉野敏成支社長、吉野一彦理事長、以上の皆様が鏡開きを行い1年の始まりを寿いだ。その後、日田市、玖珠町、九重町、由布市の各観光協会より各地のPRが行われ、今春行われる「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」の機運を盛り上げた。



九州旅客鉄道株式会社
執行役員大分支社長 吉野敏成 様



〈写真左から〉
相馬尊重 由布市長 日野康志 九重町長
宿利政和 玖珠町長 吉田一生 副知事 吉野敏成 支社長
棕野美智子 日田市長 佐竹享 久大友会会長 吉野一彦 理事長

大分市内合同同友会 開催される

令和6年2月13日、ホテル日航大分 オアシスタワーホテル紅梅の間において「けんしん同友会大分市内合同講演会」が開催された。講演会では大分市長 足立信也様より「「one team OITA」の実現に向けて」と題し、大分の将来ビジョンについて様々な分野に関して講演をいただいた。

その後、会場を孔雀の間に移して、株式会社 大分フットボールクラブの小澤正風社長が今年の大分トリニータの近況と抱負を話され「毎回1万人超えの入場者を期待しています」との言葉に、大きな拍手が起こった。懇親会では、大分市内225名の同友会会員が交流の時を持った。



大分市長 足立信也 様



懇親会会場